

第2学年社会科学学習指導案

日時 平成15年 10月 3日(金) 5校時
 場所 2年1組 教室
 学級 2年1組(男14名 女14名 計28名)
 指導者 教諭 佐藤 敦士

1. 単元名 第6章 現代の日本と世界 第1節 第一次世界大戦

2. 単元について

(1) 生徒観

生徒の授業に対する取り組みはおおむね良好である。しかし、授業中は活発に発言し「わかった」つもりでいるが、確かな学力として定着していない面がある。浅い思考による思いつきの発言が多く、自分の力で調べ、まとめる力がまだ育っていないことがその理由と考えられる。また、既習事項をもとにして新しい問題を追究するような学習の発展性に乏しく、その授業限りの学習という意識が強い。

(2) 教材観

学習指導要領では、歴史的分野における目標(3)に「歴史に見られる国際関係や文化交流のあらましを理解させ、我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深く関わっていることを考えさせるとともに、他民族の文化、生活などに関心を持たせ、国際協調の精神を養う」とある。本単元は、第一次世界大戦開戦前後から戦後の国際協調が進む時期の我が国の動きとあらましを理解させるとともに、民族運動の高まり、国際平和への努力、我が国の国民の政治的自覚の高まりに気付かせることをねらいとしており、目標(3)における「国際関係の中における日本の立場」や「他民族に対する理解」、「反戦・国際協調の意義」をとらえさせたいと考える。

学習においては、あくまでその「あらまし」を理解することにとどめ、広い視野で日本の歴史をとらえるとともに、情意面に訴え、詳細な事象の把握に陥らないよう留意したいと考える。

(3) 指導観(指導の構想)

学習の手だてを支援し、学習内容を整理するために学習プリントを活用して基礎・基本の定着をはかりたい。また、じっくりと思考の根拠を明確にさせながら考えさせたり、情意面に訴え自分の心情と重ね合わせて思考させることにより深い思考力を育てていくことが大切であると考え、学習プリントに自分の考えを文章でまとめることを取り入れていきたい。本単元の国際社会の中における日本という視点から、地図を多用して位置関係を確認しながら学習を進め、既習事項の活用および毎時間および単元ごとに反復学習をおこない確かな学力の定着をはかりたい。

3. 単元の目標

- (1) 第一次世界大戦の意義や民族独立の動きに対する関心を持ち、意欲的に追究する。(関心・意欲・態度)
- (2) 第一次世界大戦前後の国際情勢と日本の関わりを多面的・多角的に考察し、公正に判断する。(思考・判断)
- (3) 第一次世界大戦前後の国際情勢と日本の関わりに関する資料をもとに、課題を追究した過程や成果をまとめ、発表する。(資料活用・表現)
- (4) 第一次世界大戦前後の国際情勢および日本の動きのあらましを理解するとともに、民族運動、国際平和への努力、日本における政治的自覚の高まりに気付く。(知識・理解)

4. 単元(教材)の指導・評価計画(5時間扱い)

時	学習内容	評価規準			
		関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用・表現	知識・理解
1	総力戦の衝撃	資料から大戦の原因や経過、ソ連の成立などを意欲的に調べようとする。		歴史地図などの資料から、列強の利害関係や大戦の広がりの説明する。	
2 本時	連合国の一員として		大戦中に輸出が急速に増加し、日本の産業が発展した理由を考える。		日本の参戦のねらいを二十一箇条の要求やシベリア出兵と関連づけて理解する。
3	不戦の誓い		ベルサイユ体制について、各国の立場に立った多面的な視点から考察する。		戦勝国の利害によるベルサイユ体制と、国際連盟設立の歴史的意義がわかる。
4	わきあがる独立マンセーの声	朝鮮・中国・インドにおける民族独立の動きを意欲的に調べようとする。	植民地支配から独立を求める人々の心情を考える。		
5	大正デモクラシー		普通選挙法成立の政治的・社会的背景と治安維持法制定のねらいを考察する。		大戦後の民主主義の高まりを、社会的・政治的な動きをもとに理解する。

5. 本時の指導(2/5)

(1) 授業の構想

導入で生徒が関心をもてるような資料を用い学習意欲を引き出すとともに、課題の予想や検証においては、資料や既習事項を根拠にした発表により思考を深めさせたい。また、前時の既習事項の確認や「確認テスト」を通して、知識・理解面の定着をはかりたい。

(2) 目 標 (評価規準と判断基準)

	学習活動における 評価規準	判 断 基 準		評 価 方 法
		B「おおむね満足できる」	A「十分満足できる」	
思 考	大戦中に輸出が急速に増加し、日本の産業が発展した理由を考える。	大戦中に輸出が急速に増加した理由を、ひとつ考えることができる。	大戦中に日本の産業が発展した理由を、いくつか考えることができる。	学習プリント 机間巡視 確認テスト
知 識	日本参戦の理由とねらいを二十一箇条の要求やシベリア出兵と関連づけて、プリントに記入する。	日本参戦の理由とねらいを簡単に学習プリントに記入する。	日本参戦の理由とねらいを二十一箇条の要求やシベリア出兵の意図をふまえ、学習プリントに記入する。	学習プリント 挙手・発言 確認テスト

(3) 展 開

	学 習 内 容	学 習 活 動	活 動 の 支 援 ・ 留 意 点	評 価
導 入 (10)	1. 導 入 資料の読み取り 2. 学習課題の設定 日本は、なぜ第一次世界大戦に参戦したのか?	*当時の号外新聞記事から気づくことをあげる。 ・大正三年八月廿三日 ・宣戦詔勅 ・獨逸国に対し戦を宣す *新聞記事から日本が第一次世界大戦に参戦したことに気がつく。	*当時の号外新聞記事の提示。 *部分的でよいので、どのような内容の記事なのかを読みとらせる。 *教師から課題設定をおこなう。	
展 開 (30)	3. 予 想 4. 検 証 ①第1次世界大戦の確認 ②日本の立場 (個人調べ) ③戦争の影響 (班調べ)	*課題に対する予想をたてる。 *前時の学習の確認をする。 ・三国協商と三国同盟の対立 ・戦場はヨーロッパ ・長期にわたる総力戦 ・ロシアの戦線離脱(ロシア革命) *日本の思惑を考える。 ・日英同盟を理由にドイツに対し宣戦 ・「対華二十一箇条の要求」の意図を読みとる。 ・「シベリア出兵」の意図を読みとる。 *輸出増加の理由を考える。 ・アジアにおける勢力拡大 →支配力と輸出の拡大 ・同盟国への輸出拡大 →軍需品のヨーロッパ輸出 ・ヨーロッパからの輸入減少 →国内生産力の向上	*自由に発表させる。 *既習事項を生かし、考えさせる。 *地図を使い、位置関係と大戦の概要を確認する(既習事項の確認)。 *資料に吹き出しをつけ、日本の思惑を考え発表させる。 *資料集を活用する。 *日本の進出を地図で確認させる。 *「日本の輸出入」のグラフを提示。 *グラフの見方を指導する ・何のグラフか ・何を表しているか ・単位は何か ・年代はいつか ・折れ線グラフの変化から気づいたことは何か *第一次世界大戦と日本の参戦を想起しながら、班で話し合い、考えをまとめさせる。	*調べたことを学習プリントに記入しているか。 (知識・理解) *自分の考えをまとめることができたか。 (思考・判断)
ま と め (10)	5. まとめ 6. 確認テスト 7. 次時の予告	*学習課題を確認する。 *本時の「確認テスト」で振り返る。	*学習課題に戻って、学習をまとめる。	*確認テスト (知識・理解)